

広報

九州



国民の森林・国有林

平成29年7月10日
(2017年)

No 1745

九州森林管理局

〒860-0081

熊本市西区京町本丁2-7

IP電話：050-3160-6600 (代表)

<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/>

平成29年度 林野庁職員定期表彰式



林野庁職員定期表彰式を開催
☆永年勤続30年20人・20年13人を農林水産大臣表彰



式辞を述べる池田局長

平成29年度林野庁職員定期表彰が行われ、永年勤続30年表彰20人と20年表彰13人を表彰しました。

式典は、6月13日当局大会議室において、永年勤続30年受賞者及び局幹部出席のもと執り行われました。

式典では、はじめに池田直弥九州森林管理局長より「この度、永年勤続表彰を受賞されます皆様には、三十有余年の永きにわたり、国有林野事業の各般の事務・事業に真摯に取り組み、その努力・苦勞に対し敬意と感謝の意を表すとともに、支えてこられたご家族の皆様にも感謝の意を表する。今後、皆様方には、それぞれの部署の中核として、経験と知識を発揮され、活躍されることを期待するとともに



代表して表彰状の伝達を受ける中西技官

に、健康に留意され職場や家庭において充実した日々を送られることを願う」との式辞がありました。

次に、永年勤続表彰状の授与が行われ、受賞者を代表して鹿児島森林管理署の中西誠技官に農林水産大臣表彰状が伝達されました。

その後、林野庁長官の祝辞を両角実総務企画部長が代読、続いて祝電披露が行われました。

最後に、経理課の渡邊健一郎技官が「受賞者としてこの式典に列席できたことは、この上ない栄誉であり、昨年の熊本地震

(2頁へ続く)

の影響を考えると、一層感慨深いものがあります。今、森林・林業はかつてない変革の時期を迎えており、林業の成長産業化、森林・林業再生への貢献に寄与するとともに、本日の感激を糧に、国民の財産である豊かな森林を未来に引き継ぐため、更に全力を傾けて参ります」と受賞者を代表して謝辞を述べ、式典を終えました。



代表して謝辞を述べる渡邊技官

農林水産大臣賞 (勤続30年) 20人

林 視 (計画保全部長)
渡邊健一郎 (経理課)
中村雄二 (計画課)
山口隆志 (計画課)
森 浩之 (保全課)

今年度の受賞者は次のとおり

農林水産大臣賞 (勤続20年) 13人

間宮 学 (治山課)
江口 晃 (治山課)
永山博美 (屋久島森林生態系保全センター)
松下俊二 (森林整備課)
日隈俊幸 (福岡署)
峯 良彦 (佐賀署)
井上和也 (佐賀署)
萩岡茂治 (熊本署)
後藤寿也 (西都児湯署)
米丸栄輝 (都城支署)
柿本一宏 (宮崎南部署)
中西 誠 (鹿児島署)
小野貴行 (鹿児島署)
黒田伸博 (屋久島署)
川越文生 (都城支署)
志田明子 (総務課)
佐藤 剛 (企画調整課)
清田 誠 (計画課)
羽野誠一郎 (森林整備課)
中島純也 (資源活用課)
木倉浩二 (熊本署)
福泉裕介 (大分西部署)
中村健一 (大分署)
岡田伸一 (宮崎北部署)
三浦健司 (都城支署)
柿田憲司 (都城支署)
笹原秀司 (宮崎南部署)
岩下清美 (大隅署)
(担当＝総務課)

国の庁舎整備として初めてCLTパネル工法を採用

【西都児湯森林管理署庁舎整備事業】

林野庁及び国土交通省では、「公共建築物等における木材の利用促進に関する法律」に基づき、新たな木材需要の創出が期待されるCLTを活用した庁舎整備に取り組んでいます。

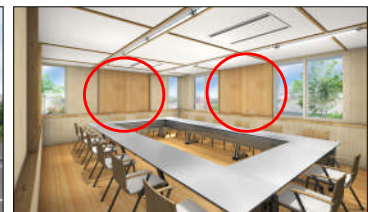
その一環として、今年度、当局西都児湯森林管理署及び四国局嶺北森林管理署の庁舎整備(庁舎営繕事業)に着手します。

この庁舎整備は、林野庁から国土交通省に支出を委任して発注を行うもので、国の庁舎整備として初めてCLTパネル工法が採用されることとなりました。

【西都児湯森林管理署庁舎整備事業(九州地方整備局発注)】

1. 工事のスケジュール
平成29年6月19日公告
平成30年度完成予定
2. 規模・構造等
工事場所：宮崎県西都市(現地建て替え)
1) 庁舎棟 木造軸組工法 平屋建て
2) 会議室棟 CLTパネル工法 平屋建て
総延べ面積約426㎡

《イメージ図》※1



・左が庁舎棟(在来) 右が会議室棟
・会議室棟内部にCLTを一部あらし(印はCLT)
※1イメージ図はあくまで実施設計段階のものであり、発注時とは異なることがあります。
(担当＝経理課)

町と合同で清掃活動

【宮崎北部森林管理署】当署で唯一の島として管理する、門川湾にぽっかり浮かぶ、ひょうたんのような形をした乙島国有林(無人島)にて、林野巡視を兼ねた環境整備の一環として清掃活動を行いました。

乙島国有林は、一部を門川町と貸付契約をしており、夏季2カ月限定でキャンプ場がオープンし、町主催のイベントも開か

れるなど、町民の憩いの場となっています。

離島であることから機会が限定されますが、今回は門川町の職員とともに島に渡り、署長を始め当署職員と門川町職員とで島内の清掃活動に汗を流しました。

その後、ドローンを活用して島の周辺部や林況を空撮し確認するなど、門川町とも保全状況などについて、今後に向けた意見交換を行うことができ、有益な一日となりました。



清掃に汗を流す職員

第二回保護林管理委員会を開く



保護林管理委員会の様子

5月29日、今年度第1回目の保護林管理委員会を開きました。冒頭、池田直弥九州森林管理局長から「今年度は、昨年12月に返還された米軍沖繩北部訓練場の、貴重な森林生態系を早急に保護するための保護林設定や、猪八重地区の保護林設定、綾地区の保護林拡充、各保護林のモニタリング実施結果の評価などについてご審議いただくこととしており、九州の自然を後世に伝えるべく努力して参りたい」と挨拶がありました。



説明を行う事務局

その後、事務局から、2017年度の検討内容及びスケジュール（案）、やんばる森林生態系保護地域（仮称）設定（案）などについて、説明がありました。米軍沖繩北部返還地における保護林設定については、09年3月に「沖繩北部国有林の取扱いに関する検討委員会」が取りまとめた報告書「沖繩北部国有林の今後の取扱いについて」を基本に検討していくことが承認されたものの、その後8年が経過する中で、隣接地がやんばる国立公園に指定され、世界自然遺産に推薦されたことや、動植物の増減などの状況変化も考慮することが必要となりました。

委員からは、「コアエリア（保存地区）のむき出し部分を解消すべき」「3箇所に孤立している保護林の連続性を担保することが必要」「保護林に含めない国有林については、林業など地域ニーズに配慮した取り扱いは検討すべき」「エコツアー



意見を述べる委員

などの利用者の動向調査が必要」などの意見をいただきました。

今年度は、計5回の委員会を予定しており、今後、各議題について検討していくこととしていきます。

（担当：計画課）



九州脊梁山地の麓に住んでおり、子供のころから山はあって当たり前であり、見ているように見えていない存在であったと



枝尾 千春 さん

庭先にまで出てくるようになったことです。自然が身近になったと思いきや、山と里山の区別が無くなり、彼らのテリトリーが広まっただけでなく、山が彼らを養えなくなっているのではないかと、一体、山はどうなっているのだろうかとの好奇心からモニターに応募しました。

山の力・山の価値

仕事から、間伐等の手入れをされずに放置してある山を見るのは辛いものがあります。「どきどきかんか出来んどか」と思うばかりで何も出来ません。流し台

熊本地震後の豪雨で山の許容量を超えた大水が土砂、流木と共に濁流となって田植えが済んだばかりの田んぼに情け容赦なく押し寄せ、一面を川にして、人の手で造ったあらゆるものを呑み込んでいきました。自然の破壊力のすさまじさを目の当たり

の排水口の行きつく先に海があるように、山から流れ出た水が行きつく先も海。その海の水が蒸発し雨となって地上に降る循環を繰り返す中、最近局地的な豪雨が起きています。昨年六月、

壊力にして、ただただ、ため息と脱力感しかありませんでした。山は私たちに木材や水を与え、

二酸化炭素を吸収し酸素を供給するばかりでなく、四季折々に憩いの風景を無償で提供してくれます。

山は経済的価値だけでは語れないものがあると思いますが、生業として林業をやる以上儲かる林業でなければなりません。人手不足と言われて久しいこの業界に、如何にして多くの人の山の魅力を伝えることが出来るか、モニターの期間中に何か手がかりでも見つけることが出来ればと思います。

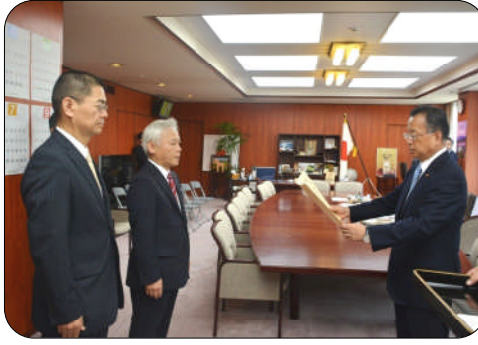
（熊本県山都町在住）

当局が農林水産大臣賞を受賞

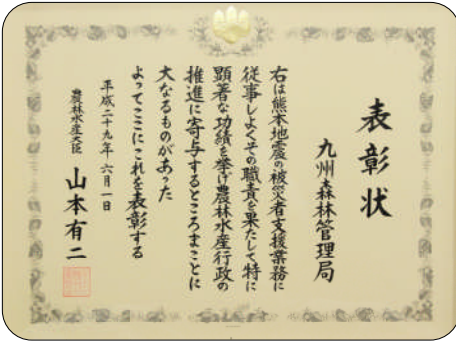
平成29年度優良職員等表彰行われる

6月2日、平成29年度優良職員等表彰が行われ、九州森林管理局が農林水産大臣賞を受賞しました。

表彰式は、農林水産省大臣室において行われ、当局より職員2人が出席、山本有二農林水産大臣より表彰状が授与されました。



今回授与された表彰状（左）と 大臣室での表彰式の様子



今回の受賞は、熊本地震発生後速やかに、被災した近隣住民などに対して、局大会議室などを避難所として開放し、避難住民への日々の飲食料の提供を行うとともに、職員を24時間常駐させ、また避難者のストレス緩和を目的に森林教室を実施するなど、避難所におけるきめ細やかな支援活動を行ったこと。

また、物資の搬入・夜間の警備などに職員を分担させて被災者支援活動を行うとともに、被災自治体への職員派遣（罹災証明手続きや被災家屋調査など）を通じて、震災の支援活動などに貢献したことが評価され、今回の受賞となったものです。

今回の優良職員等表彰では、林野庁関係から、農林水産大臣賞として、当局並びに北海道森林管理局日高北部森林管理署が受賞しました。また、林野庁長官賞として、東北森林管理局盛岡森林管理署松尾亨氏、四国森



表彰式を終え山本大臣（中央）と

林管理局鷹野孝司氏が受賞しました。

（担当：総務課）

シカ被害対策協定締結

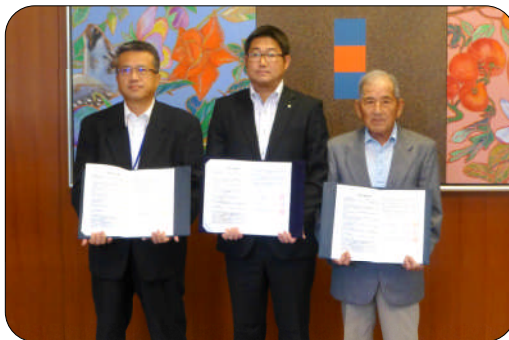
【熊本森林管理署】6月7日、美里町役場において美里町、熊本県猟友会美里支部と当署の三者による、シカ被害対策協定の締結及びシカ罨引渡式を行いました。

式では、上田泰弘美里町長から「近年のシカ被害の増加には危機感を持っており、民国連携したシカ捕獲の取り組みは有意義であり、国有林の取り組みに

感謝する」との表明がありました。

また、吉田益雄猟友会美里支部長は「貸与の罨により、より多くのシカを捕獲し、シカ被害を軽減したい」と述べられました。

本協定により、当署管内でシカ被害が特に顕著な九州中央山地域を抱える、山都町、高森町、南阿蘇村及び美里町の4町村全てと協定が締結され、当地域での重点的なシカ捕獲が期待されます。



協定を締結した三者

県との意見交換会開催

【宮崎北部森林管理署】民国連携の一層の推進を図るべく、民有林行政を担う東臼杵農林振興



宮崎県との意見交換会の様子

局と宮崎北部森林管理署とで、山村地域の現状や低コストの取組、事業体育成など、地域の森林・林業の課題について意見交換会を開きました。

宮崎県からは、再造林推進や山村地域の活性化に向けた取組みの説明があり、国有林からは管内の事業量や低コストの取組みについて、情報提供しました。

会議の最後には、今後も情報共有を密に連携を深め、地域林業の発展のため協力していくことを確認し、意見交換会を終了しました。

また、意見交換会後の懇親会においても、更に連携強化を深めることが出来ました。

国有林材供給調整検討委員会を開く

〜現時点での供給調整は要しないとの検討結果〜

6月7日に、本年度第1回目の「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。

各委員がそれぞれの専門分野からの意見を述べあい、「現時点での供給調整は要しない」との検討結果となりました。各委員からの主な意見は次のとおりです。



挨拶する池田局長

○原木はまんべんなく出ており、国有林材の供給は現状維持で良い。一部供給過多の地域があり、現場（山土場）に材がたまって虫害による品質の劣化などが心配される。素材生産の現場は若手が増えてきたが、他業種に引き抜かれることもある。また、不法伐採が懸念されており、地域のまともな役や山に詳しい人がいなくなっていることが問題。



意見を述べる委員

○県内の系統市場の1〜5月までの出荷量は、対前年比110〜120%の伸びとなった。間伐から皆伐へシフトしてきたことが一因。原木輸出が好調であるが、今後は良質材や製材の輸出により販売価格を上げて山主に還元していかねばならない。

○スギ原木価格は現状維持の状況にあるが、ヒノキ原木価格が若干下がっている。最近では輸出が好調で、韓国向けヒノキ原木（2・4m）が市場離れで14000円前後にもなる。ヒノキは集成材や輸出などのB、C材の引き合いが多いため、A材の需要開拓を行う必要がある。
○原木供給は順調で、前年と比べてもそれなりの出材となっ

ている。製品荷動きは年度を越した仕事があり、比較的順調。公共施設や民間施設の木造化の計画が散見されており、今年はこの需要が期待できるのではないかと見られる。

○原木市場への出荷量が多く、本来なら原木価格は下がる傾向にあるが、製品の荷動きが好調のため価格はそこそこ維持されている。製品については、グリーン材は3月頃から動きが悪いが、KD材はよく動いており値戻し程度であるが単価を上げた。大手ハウスメーカーや地場の有力ビルダーに仕事が集中していることによる。

○バイオマス燃料用の未利用材の出材が増えており、コスト面



検討委員会の様子

から製紙用チップ原料の仕入れが難しい状況。燃料用チップ原料は製材端材も入れている。製紙用チップ原料について、針葉樹原木は今のところ国産材としているが、今後、原木確保に難しいハンドリングを強いられる。（担当：地域木材情報分析官）

土埋木公売を実施

【屋久島森林管理署】6月6日、当署安房貯木場において屋久杉土埋木の公売を行いました。

現在、九州森林管理局内では素材の販売方法としてシステム販売が主流であり、一部は民間市場への委託販売も実施されていますが、署独自の公売を実施しているのは当署だけです。

このため、検知、極えのレイアウト、価格評定、会場設営など全てを職員実行で行うため、公売に向けて業務グループの関係職員だけでなく、5月25日には事前に署員全員で公売当日の役割分担を決めて詳細な打合せを行いました。

公売当日は、屋久島内外から約40人にもなる多くの買方者が参加する中、当署若本清文次長の開会挨拶のあと公売が開始され、約40立方尺の屋久杉土埋木が、競り子（当署職員）の威

勢の良い掛け声とともに、次々と競り落とされていきました。その結果、最高値は立方尺あたり約190万円を越える値段がつくとともに、平均入札単価は立方尺あたり約34万円を取り引きされました。

また、この公売の様子は、新聞・テレビのマスコミ取材も受けるなど、屋久杉土埋木への関心の高さがうかがえました。

当署では、屋久杉土埋木が貴重で限りある資源であるため、少しでも細く長く生産・販売が出来るように取り組むとともに、引き続き関係機関と連携しながら、杉人工林の需要拡大にも取り組み、収入確保に努めていく考えです。



活発な競りが行われた土埋木の公売

「心の健康づくり講話」を実施

精神保健福祉士が「職場のメンタルヘルス」と題し講話

5月31日、局大会議室において、桜が丘病院より精神保健福祉士原田健一氏を講師に招き「職場のメンタルヘルスについて」と題して、「心の健康づくり講話」を開きました。

この講話は、局の「心の健康づくり実施計画」に基づく講話で、署長等会議に併せて行っており、局内職員や各森林管理署長など約70人が参加しました。

講話では、①メンタルヘルスについて②ストレスについて③心の病について④ストレスへの対応についての4項目について説明がありました。

①メンタルヘルスについては、メンタルヘルスが悪化した



メンタルヘルスについて学びました

職場では、事故やミスが発生する可能性が大きく、事故後の対応やミスのカバーに多大な労力が必要となり、不調者が発生することによって、労働生産性の低下や不調者への対応に追われることになるなど、メンタルヘルスの重要性・影響について話していただきました。

②ストレスについては、ストレスの特徴、発生のメカニズム、身体的・心理的・行動面での対応、ストレス反応を左右する

要因についての説明がありました。③心の病については、仕事上・仕事外のストレス要因が重なり、ストレス反応を起こすことにより疾病につながることに、特にうつ病は女性に多く、自殺要因の第一位になっていることなどについて、詳しく話していただきました。

④ストレスへの対応については、個別の対応（セルフケア）、管理職の対応（ラインケア）、リラクゼーションの方法について説明があり、最後に自分のストレスについて各自チェックを行い、ストレスパターンについて

要因についての説明がありました。③心の病については、仕事上・仕事外のストレス要因が重なり、ストレス反応を起こすことにより疾病につながることに、特にうつ病は女性に多く、自殺要因の第一位になっていることなどについて、詳しく話していただきました。

④ストレスへの対応については、個別の対応（セルフケア）、管理職の対応（ラインケア）、リラクゼーションの方法について説明があり、最後に自分のストレスについて各自チェックを行い、ストレスパターンについて

要因についての説明がありました。③心の病については、仕事上・仕事外のストレス要因が重なり、ストレス反応を起こすことにより疾病につながることに、特にうつ病は女性に多く、自殺要因の第一位になっていることなどについて、詳しく話していただきました。

要因についての説明がありました。③心の病については、仕事上・仕事外のストレス要因が重なり、ストレス反応を起こすことにより疾病につながることに、特にうつ病は女性に多く、自殺要因の第一位になっていることなどについて、詳しく話していただきました。



多様な植物

116 ホオノキ (モクレン科)

ホオノキは、他の植物が生えることは少ない。落葉や根などから分泌される他感物質により種子発芽や、発芽した植物の生育を強く抑制させるため、自生地では下草が少なく落葉の堆積が目立ちます。

飛騨高山地方の郷土料理ホオノキの味噌焼きが有名です。自家製の味噌にネギなどの薬味、椎茸

などの山菜をからめたものをホオノキの葉に載せて焼き、ご飯に載せて食べます。

飛騨高山地方の郷土料理ホオノキの味噌焼きが有名です。自家製の味噌にネギなどの薬味、椎茸

などの山菜をからめたものをホオノキの葉に載せて焼き、ご飯に載せて食べます。



要因についての説明がありました。③心の病については、仕事上・仕事外のストレス要因が重なり、ストレス反応を起こすことにより疾病につながることに、特にうつ病は女性に多く、自殺要因の第一位になっていることなどについて、詳しく話していただきました。

④ストレスへの対応については、個別の対応（セルフケア）、管理職の対応（ラインケア）、リラクゼーションの方法について説明があり、最後に自分のストレスについて各自チェックを行い、ストレスパターンについて

要因についての説明がありました。③心の病については、仕事上・仕事外のストレス要因が重なり、ストレス反応を起こすことにより疾病につながることに、特にうつ病は女性に多く、自殺要因の第一位になっていることなどについて、詳しく話していただきました。

要因についての説明がありました。③心の病については、仕事上・仕事外のストレス要因が重なり、ストレス反応を起こすことにより疾病につながることに、特にうつ病は女性に多く、自殺要因の第一位になっていることなどについて、詳しく話していただきました。

要因についての説明がありました。③心の病については、仕事上・仕事外のストレス要因が重なり、ストレス反応を起こすことにより疾病につながることに、特にうつ病は女性に多く、自殺要因の第一位になっていることなどについて、詳しく話していただきました。

要因についての説明がありました。③心の病については、仕事上・仕事外のストレス要因が重なり、ストレス反応を起こすことにより疾病につながることに、特にうつ病は女性に多く、自殺要因の第一位になっていることなどについて、詳しく話していただきました。

要因についての説明がありました。③心の病については、仕事上・仕事外のストレス要因が重なり、ストレス反応を起こすことにより疾病につながることに、特にうつ病は女性に多く、自殺要因の第一位になっていることなどについて、詳しく話していただきました。

要因についての説明がありました。③心の病については、仕事上・仕事外のストレス要因が重なり、ストレス反応を起こすことにより疾病につながることに、特にうつ病は女性に多く、自殺要因の第一位になっていることなどについて、詳しく話していただきました。

て把握することにより対処方法を知ることが、心の健康につながるかと話され、講話を終了しました。

この講話を通じて、心とからだの健康を保持増進し、明るく健康な職場づくりができることを願っています。

(担当 総務課)

お悔やみ申し上げます。

阿南 一義様
熊本森林管理署勤務、農林水産技官 阿南一義様は、7月1日ご逝去されました。
(享年59歳)

今月号では、林野庁職員定期表彰式と優良職員等表彰式の2件の表彰式を掲載しました▼永年勤続30年受賞者20人が出席した定期表彰式では、ピンと張り詰めた雰囲気の中にあって、受賞者の晴れやかな顔が印象的でした▼受賞者の皆様に対し心からお祝い申し上げます▼優良職員等表彰は、熊本地震での当局の支援活動などが評価され、農林水産大臣賞を受賞したものです▼熊本地震から1年3カ月が過ぎようとしています。地震発生時の混乱した状況や、その後の避難者対応など、まだ鮮明に記憶に残っています▼現在も地震からの復旧・復興への取り組みは続けられていますが、当局職員の避難者への対応が評価されたことは喜ばしいことです▼しかし、6月には諫早市・佐伯市や長野県で大きな地震が発生し、7月に入り熊本県産山村や北海道で震度5弱の地震が発生するなど、地震は頻発しています▼今後も地震への対策が必要なのはもちろん、地震で緩んだ地盤への雨の影響も考慮する必要があります。皆さん自然災害への備えは万全に。(つ)